

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢吹町立善郷小学校（福島県）

## 【取組内容①】 国語科での個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

## これまでの国語科の授業

- ・ 教師の発問に対して、個別に読む時間を設定ながら全員で課題解決していく。
- ・ 教科書、ノートを使って学習を進めていくことが中心。

## アウトプットを目標においた単元構成

- ・ 児童1人1人の目的に応じて主体的に活動できる。
- ・ 情報の取捨選択を迫られる場面が増える。（必要な情報を選び出す力）

## 児童の変容

- ・ タブレット型端末の効果的な活用を考える。（シンキングツール、ミラーリングによる発表）
- ・ 学ぶ方法を自ら考える。

「タブレット型端末を活用する」ためにどうするかではなく、児童にどのような内容をアウトプットさせるかを考え、単元を構成していく。そうすることで、児童が自ら考える場面が増えていく。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢吹町立善郷小学校（福島県）

【取組内容①】 国語科での個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

授業の実際

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展 開	防災について発表するために、項目ごとに調べたことをまとめる。	本時について、活用の仕方について特別な指導は行わなかった。発表を目指して児童が活動する中で、まとめ方を工夫する児童が表れた。



型は指定せずに、自分が発表しやすいようにまとめさせた。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢吹町立善郷小学校（福島県）

## 【取組内容①】 体育科での個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

## これまでの体育科の授業

- ・手本は授業中に見せるか別の時間に全員で教室内で見せるしかなかった。
- ・必要に応じて児童を集め、運動のコツを伝えたり、話し合わせたりしなければならなかった。
- ・児童によっては目で見ても運動のコツができていないか分からなかった。

## ICT機器を活用した授業

- ・手本を配信することでいつでも正しい動きが確認できる。
- ・動画を確認しながら本時に身に付ける技能について話し合うことができる。
- ・本時に扱う技能以外でも教師の声かけによって動画を見て、各児童の課題に沿った活動が可能になる。

## 活用が進むと・・・

- ・運動を見る目が養われてくるとタブレット型端末を使用しなくても友達の運動を見ながら互いにアドバイスができるようになる。  
（場合によっては、タブレット型端末を使用するより効率的に活動できる。また、運動時間のさらなる確保につながる）

**タブレット型端末を活用することで児童が客観的な視点で運動の技能について協働的に学ぶことができる。また、本時のねらいだけでなく、個別の課題についても主体的に学ぶことができる。**

【取組内容①】 体育科での個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

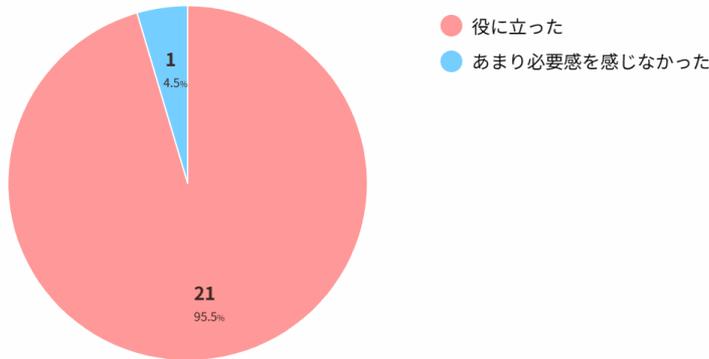
授業の実際

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	チームでバトンパスの練習をし、その様子を撮影する。	本時に身に付けたいポイントを絞ることで技能のコツなどを共有しやすくする。 事前に手本となる動画を送信し、正しいバトンパスと自分のたちのバトンパスを比較できるようにする。

【5】

タブレットPCは、バトンパスのレベルを高めるために、バトンパスの様子を撮影してチェックしたり、よかった点や改善点について話し合ったりすることに役立ちましたか？

棒グラフ 円グラフ

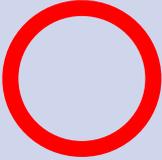


グループで活動することで、「運動する児童」と「撮影する児童」に分かれることができるようにした。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢吹町立善郷小学校（福島県）

## 【取組内容②】ウェブ会議ソフトを使ったオンライン見学

	実際の見学	オンライン見学	ゲストティーチャー
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に製品や機械を見ることができ</li> <li>・説明されたもの以外のも</li> <li>・見ることができ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人数でも全員が同じ視点で見学</li> <li>・できる</li> <li>・短時間ででき、日程の調整がしや</li> <li>・すい</li> <li>・機械や製品を見ることができ</li> <li>・る</li> <li>・録画しておくこ</li> <li>・とで繰り返し視聴</li> <li>・できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間でできる。</li> <li>・小さなものであ</li> <li>・れば見ることもで</li> <li>・きる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程、バス予約の可否、料金などの問題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接見ることができない。</li> <li>・視点が固定される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインに比べて日程が調整しにくい。</li> </ul>

それぞれの良さはあるが、時間的・コスト的にオンライン見学は実施しやすい。相手方がICT機器の使用が苦手でも教員が1人訪問すれば実施できる。

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

矢吹町立善郷小学校（福島県）

## 【取組内容②】 ウェブ会議ソフトを使ったオンライン見学

## 授業の実際

段階 場面	主な学習活動	ICT機器活用のポイント
展開	オンラインで大堀相馬焼の窯元を見学し、分かったことをワークシートにまとめる。	窯元に解説をしていただきながら、製作している様子を見学する。 難しい語句は教師が易しい言葉に言い換えて説明する。



事前に見学先を訪問し、児童の課題や単元・学習のねらいについて説明し、ねらいに沿って説明していただけるようにした。

## 【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実



## 善郷小学校タブレットの 持ち帰りルール

令和5年度456年生バージョン

このバージョンは、持ち帰りに慣れるまでのものです。家庭でも安全に正しくタブレット型端末を使用できるように考えたルールです。

### インターネットは使用しない

持ち帰るときは、インターネットで調べたり、検索したりしません。宿題が終わった後にもっと学習したい人は「すららドリル」を使うことができます。

### 大切に使います

タブレット型端末は町から借りているものです。ていねいに使うのはもちろんのこと、壊したりなくしたりした場合は報告する必要があります。また、「学習のために」借りているものなので、それ以外の目的では使いません。

正しく安全にタブレット型端末を使うために…

### 家の人といっしょに使おう

タブレット端末を毎週末持ち帰るのはみなさんの家族にとっても初めての経験です。どのように使って、どんな学習を行うのか知っていただきたいと思えます。隠れてルールを破ることのないようにしましょう。また、どのような使い方をしているかは調べることもできます。自分自身でしっかりとルールを守りましょう。

### 情報機器の危険！

正しく使わないことで様々な危険があります。

- 個人情報の流出
- 金銭面のトラブル
- 友達とのトラブル(いじめなど)



持ち帰りに際して、保護者の不安や不満につながらないように安全にきまりを守ってタブレット型端末を使用するため、持ち帰りのルールを設定した。児童が家庭学習でのタブレット型端末活用に慣れてきたら、徐々に課題の種類を増やしていく。

また、持ち帰りを開始する前に児童を集め、説明会を行った。

**【取組内容④】 対話的・協働的な教員研修につながるクラウド活用**

これまでの校内研修や教員間の連絡は紙ベースで行ってきた。

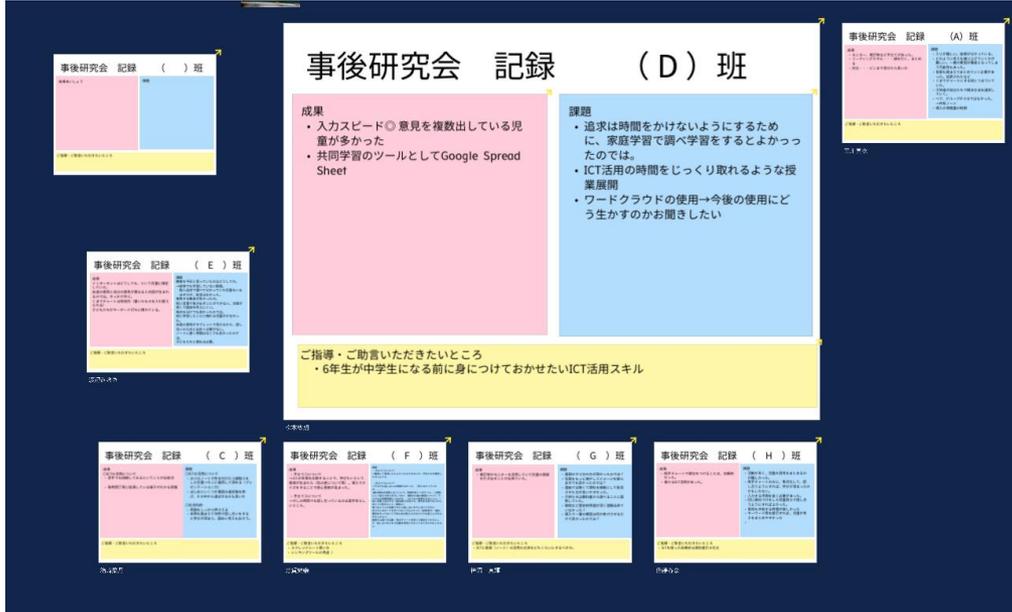


タブレット型端末のアプリを活用して、デジタル化を図った。

- ・ Googleアプリ（classroom、フォーム、meetなど）
- ・ ファイル共有アプリ

はじめはタブレット型端末での研修やアンケートの回答に苦戦する教員の姿もあったが、タブレット型端末での記入に制限することで活用に慣れてきた。

【取組内容④】 対話的・協働的な教員研修につながるクラウド活用



デジタル化することで、研究授業の時には、事前検討会での内容等も踏まえながら協議を行うことができた。



クラスへの連絡事項を入力

10月27日

27週分の週報です。

週報27週.pdf

クラスのコメントを追加

矢吹町立善郷小学校代表  
10月27日

竹内先生、お疲れ様です。  
参観された先生方、振り返りシートの記入をお願いします。

研究授業振り返りシート

クラスのコメントを追加